

令和5年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

<b>教育目標</b>	～ものづくりの心をつなぐづくり～「豊かな人間性と高い専門性を持ち、産業界の発展に寄与できる実践力のある工業技術者の育成」 (1) 校是「根性・協調・純真」のもと、郷土を愛し地域社会の担い手となる気概を育成する。 (2) 新しい時代を築くために必要な情熱と挑戦する心、および目的をやりぬく力を育成する。 (3) 技能を身につける過程において、心・技・体を鍛える「匠のものづくり」を実践する。 (4) 科学的根拠に基づいたものづくりを推進し、科学技術の進展や環境・エネルギー問題に柔軟に対応できる人間を育成する。 (5) 健康と体力の増進に努め、感性豊かでたくましく、心やさしい人間を育成する。
-------------	---

<b>重点目標</b>	<b>【全般】</b> (1) 産業系高校フューチャープロジェクトの実施（新構想委員会、工業科、元気プロジェクト、生徒会等） (2) 山形工業高等学校産業教育連携協議会（山工コンソーシアム）設置と運営（総務部） (3) 訴求力の高い多様な広報戦略の展開（情報企画部） (4) さらなる特色化、魅力化により本校への志願者増を図る。
	<b>【学習指導】</b> (1) ICT機器を活用した授業改善に努め、主体的・協働的な学びによる確かな学力を育成する。 (2) 学び合ったことを生かし合い、その成果を地域に発信する。 (3) 地域社会の課題やSDGsをテーマとした教育活動を通して探究的な学びを充実させる。 (4) 地域、企業、大学等と連携した「社会に開かれた教育課程」を実践し、専門性の深化を図る。 (5) ものづくり関連大会や資格取得に積極的に取り組ませ、高度な工業技術・技能を習得させる。 (6) 専門性を身につけるための基礎学力と学習習慣の定着。
	<b>【進路指導】</b> (1) キャリア教育を通して勤労観・職業観を養い、主体的に進路を選択させる能力を育成する。 (2) 高い進路目標を実現させるため、学年・学科・教科・進路指導部の具体的な連携を強化する。 (3) 県内の大学・短大等（山形大学、東北芸術工科大学、県産業技術短大等）への進学者を増やす。
	<b>【生徒指導】</b> (1) 自分の存在や生き方を大切にしながら、他者のいのちや生き方を尊重する姿勢を育成する。 (2) 「いじめ防止基本方針」に基づき、早期の予防・発見・対応に努め、いじめのない学校づくりを推進する。（学級担任だけに負担や責任を委ねることのない組織的な対応） (3) 基本的な生活習慣の確立と公共心やマナーを養い、社会の一員としての意識向上を図る。 (4) 学級活動や生徒会活動・学校行事・ボランティア活動等に主体的に取り組む態度を育成する。 (5) 部活動に積極的に取組ませ、豊かな人間性や連帯感、向上心等を育成する。 (6) 地域社会をフィールドとした生徒会活動を通して、伝統校としての誇りを育む。
	<b>【学校保健・学校安全】</b> (1) 生徒の心身の状況を日常的に観察し、全職員が共通理解を持った指導を実践する。 (2) 教室や校舎内外の衛生環境を日常的に点検し、学習環境の整備・保全とその美化に努める。 (3) インクルーシブ教育システムの考え方を踏まえた特別支援教育の充実を図る。 (4) 生徒が安心して登校できる学校づくりに努め、出席率の向上並びに皆出席者数を増加させる。
	<b>【その他】</b> (1) キャリア教育・SDGs・ボランティア活動等を通して、地域とつながる学校づくりを推進する。 (2) 学校に活力を与える部活動やものづくり活動の育成と支援を充実する。 (3) 一人一台タブレットや校務支援システムを活用し、校務の効率化を図る。 (4) コミュニケーションを大切にし、ハラスメントの無い、より働きやすい環境づくりに努める。

評価基準 「A」：達成(ほぼ当てはまる) 「B」：概ね達成(やや当てはまる) 「C」：やや不十分(やや当てはまらない) 「D」：不十分(ほとんど当てはまらない)
--

番号	自己評価	具体的方策と目標・基準等	目標達成状況及び達成に向けた取組み状況と分析	達成度	次年度に向けた改善等	学校関係者評価 意見・要望・評価等	総括
1	全般	(1) 中学生への魅力発信のため、全科において中学生体験学習を行う。また、新しいプロジェクトを山工コンソーシアムでの助言を頂きながら具体化する。【新構想・工業科】	各科で体験学習会を開催することができた。また、山工元気プロジェクトを中心に、来年度より新しいプロジェクトを進める予定である。	A	中学生を対象とする体験学習会であることを明確にし、募集方法など科間での連携が必要。	・年間を通じて頻繁に情報発信を行っており、ホームページ等の情報発信件数多くて素晴らしい。どの部署でどのように行っているのか。 ・目標設定の際に、もう少し数値目標を入れることはできないか。また、自己評価の文言についても、例えば「開催した」だけでは成果が分からないので、その成果が見えるような評価にしては。また、魅力発信についての評価をどう行うか。成果が出てくれば良いのでは。 ・自己評価の評価指標として可能な範囲で数値目標を取り入れ、その達成度の評価を行う。魅力発信についての評価は、アンケート等も実施しているがすぐ結果が見えるものではないので、今後も継続的な取り組みが求められる。 ・資格取得は、1年の頃は取りたい資格に積極的にチャレンジしているが、3年になるとその殆どが資格を取り終え、自身の進路に向けて取り組むようになる。 ・中学生を対象とした学校見学会や体験学習会等の際に、生徒の活動の様子や作品を展示・紹介し、本校の特色ある取り組みを、多くの人が知っていただく機会とする。	・今年度より情報企画部を立ち上げ、ホームページ、X等だけでなく学校要覧など学校からの全ての情報発信を一元管理している。次年度も引き続き、情報の一元管理と速やかな発信を行っていく。 ・自己評価の評価指標として可能な範囲で数値目標を取り入れ、その達成度の評価を行う。魅力発信についての評価は、アンケート等も実施しているがすぐ結果が見えるものではないので、今後も継続的な取り組みが求められる。 ・資格取得は、1年の頃は取りたい資格に積極的にチャレンジしているが、3年になるとその殆どが資格を取り終え、自身の進路に向けて取り組むようになる。 ・中学生を対象とした学校見学会や体験学習会等の際に、生徒の活動の様子や作品を展示・紹介し、本校の特色ある取り組みを、多くの人が知っていただく機会とする。
		(2) 山形工業高等学校産業教育連携協議会（山工コンソーシアム）を設置し、学校評議員と行って年2回協議会を開催する。【総務】	6/15,2/20(予定)の2回開催し、各委員より助言を頂く事が出来た。	A	来年度も2回開催し、助言を頂きながら進めていきたい。		
		(3) HP、専用アプリ並びにSNSにより、県内の中学生ならびに保護者への訴求力のある情報発信を迅速かつ適切に行う。【情報企画】	ホームページは4月から各種大会等の報告をはじめ、12月末時点で107回の記事を公開、今年度新たに開設したInstagramは56件の投稿をおこない、情報発信に努めた。	A	引き続き情報収集ならびに発信に努め、他分掌の職員からも引き続き協力いただきながら全職員で取り組んでいけるよう整備を行う。		
2	学習指導	(1) 各教科・学科でICT機器を活用した授業の研究を行い、年1回以上の研究授業と年2回の授業評価により、課題の抽出及び授業の改善につなげる。【教務】	9/4～8の研究授業週間を中心に、7回の研究授業を実施し、ICT機器を利用した授業も実施された。授業評価指数は3.66で昨年とほぼ同様であった。	B	学科・教科間の連携を深めながら、ICT機器を活用した授業展開の研究を更に推進していく。また、授業評価の結果を踏まえ、生徒一人ひとりの理解が更に深まる授業に改善していく。	・学校評価アンケートの「自主学習への取組み」の項目について、自主学習とは資格取得への取組みと捉えてよいのか。また、学年が進むにつれてポイントが下がっているが、その要因は何か。 ・各専門学科では様々なものづくり活動を行っている。建築科では設計デザインコンクールなどで制作した作品があるが、コンクールが終わると作品の行き場がなくなる。折角なので、制作したものを昇降口などの人目の着くところに展示するなどして、活動の様子を他の生徒や外部に紹介してはどうか。 ・各工業高校が各種大会やコンテスト等に参加した作品を見ると、その出来栄に学校毎で違いがみられる。その要因として製作過程での工作機械等によるものがあるようだが、工業高校各校の設備に格差があるのではないかと。各校で設備の差が無くなり充実した環境になることを要望する。	
		(2) 課題研究や工場見学等、地域・企業・大学等と連携した学習活動を通して、専門性の深化を図る。【教務】	全校課題研究発表会は昨年同様、大視聴覚室からリモートで実施した。産技短連携報告会も実施し講演を頂いた。1、3年生の工場見学は予定通り実施できた。	A	企業・大学等の教育機関と連携した学習活動を継続し、専門性の深化と共に、自主性や地域への貢献を図る。		
		(3) 工業に関する資格や検定等取得し、基礎力の定着を図るとともに実践力のある生徒の育成を目指す。【工業科】	放課後の講習や家庭学習の充実により、例年通りの成果を残すことができた。また、国家資格への挑戦が多くみられた。	A	今後も自主的に資格取得へ向けた学習ができるような体制の構築が必要。		
		(4) 様々な講習やコンテスト、SEPS等への参加により、より高度な工業技術・技能の習得を目指す。【工業科】	多くのコンテストやSEPS等へ積極的に参加でき有意義であったが、参加しているコンテストが多過ぎる。	A	参加すべきコンテストやイベントの精選を行う必要がある。		
3	進路指導	(1) キャリア教育実践プログラムに基づいた36ヶ月プランの実行、キャリア・パスポートの有効活用により、職業観や勤労観を育み、生涯にわたる多様なキャリア形成に必要な学びを身につけさせる。【進路】	新型コロナウイルス感染症の制約もなくなり、計画に基づき実施することができた。特にインターンシップ、企業見学、外部講師を招いての進路講話により、職業観や勤労観を育むことができた。	A	キャリア教育実践プログラム、キャリア・パスポートのさらなる有効活用のため、学年団への説明を強化する。	・本校生徒からの来校者への挨拶は大変素晴らしい。これは普段の生徒指導活動の成果と感じており、引き続きの対応を期待します。 ・いじめ発見調査アンケートの結果について、少数であるが報告があるのが気になる。	
		(2) 進路実現に向けて、外部模試の事前・事後指導やICT活用により、学年・学科・教科と連携し、全職員で基礎学力や学習習慣の定着を図る。【進路】	外部模試の事前指導の強化、目標設定の説明により取り組みが以前に比べ積極的になった。ICTの活用が十分でなかった。	B	入りたい企業、学校への進路実現のために、基礎学力・学習習慣の定着に向けての施策の検討が必要である。		
		(3) 山工コンソーシアムの協力を得ながら地元企業連携や高大連携を密にし、社会人講話、工場見学、大学の出張講義、卒論発表会、SEPS等への参加により、最新の科学技術や環境問題、エネルギー問題に触れるとともに地元の企業、学校の良さを感じさせる。【進路】	山工工学部、理学部職員の出張講義（188名参加）、産技短との課題研究の連携等を通して高い技術、科学技術に関する知識を得ることができた。芸工大への進学者が昨年より増加した。	A	県内企業の情報発信、県内学校との高大連携により地元のよさや魅力を感じさせる。		
4	生徒指導	(1) 道徳心や倫理観を養い、自他のいのちや生き方を大切にする姿勢を育成する。【生指】	講話や生徒会活動等を通して、道徳観や倫理観を学ぶことができた。	A	次年度以降も講話等や生徒会活動等を増やし、考え学ぶ機会を計画する。	・生徒会活動をはじめ、各種活動に生徒が主体的に取り組むことで、課題意識を持ち自分事と捉えながら活動していけるよう、サポートしていく。 ・改めて、いじめは決して許さないという共通認識に立ち、全職員がいじめの態様や特質等について共通理解を図り組織的に対応する。また、いじめに係る相談を受けた場合は速やかに面談等を行い、事実の有無や実態把握とその対応に努める。	
		(2) 定期的アンケート等を利用した生徒の実態把握に努め、いじめ等の問題行動の未然防止に組織的に取り組む。【生指】	予定通り実施することができ、面談も実施した。	A	次年度もアンケートを年2回実施すると共に、学年団や部活動顧問との連携を密にして未然防止に努める。		
		(3) 自転車安全講話と自転車点検、情報端末機器の利用や公職選挙法等に関する講習会を実施し、マナーやモラル指導を徹底して公共心を養う。【生指】	安全講話を実施したが、交通事故は多く自転車未検による盗難の問題や交通マナーの悪さも指摘されている。またSNS上のトラブルに要注意である。	B	交通ルールの遵守とSNSとの付き合い方を学ばせるため、街頭指導、全体集会等を実施して指導を重ねていく。		
		(4) 学級活動や生徒会活動、学校行事では1人1役以上を担い、またボランティア活動にも3年間で2度は参加する。【生指】	ボランティアは感染症等に配慮しながら、可能な範囲で取り組んでいる。	A	訪問ボランティアを中心とした活動を広げながら、人の為に役立つ経験を可能な限り行う。		
		(5) 部活動を積極的に取り組ませ、全国大会出場50名以上を目指す。【生指】	各部とも積極的に活動に取り組み、全国大会では柔道個人100kg級で3年（梅津昇波）がベスト8と優秀な成績を取った。強化部を中心に、国体・全国大会への出場は現在のべ59名と目標を達成することができた。	A	活動できる貴重さを実感させ、積極的に有意義な時間を過ごさせる。顧問の連携を密にし、有効に施設を使用する。		
		(6) 生徒会活動を活性化し「山工 NEXT VISION 103」のもと、次の百年のスタートにふさわしい活動を展開させる。【生指】	山工祭など生徒達の想いを可能な限り実現するなど、成果を上げている。	A	校則見直し等で生徒自身が率先して課題に取り組むことで、自主的な活動をさらに発展・継承させていく。		
5	学校保健・学校安全	(1) 校務支援システム等を活用して日常的な生徒の健康状況や精神状況を把握し、生徒が安心して学校生活が送れるよう支援する。【保健】	校務支援システムによる健康把握も定着してきて担任業務の軽減が図れた。しかし、以前のように生徒の詳細を把握することが出来ない課題は残っている。	A	生徒の健康状況や精神状況を把握できるよう現状に合ったシステムの構築が継続的に必要である。	・学校評価アンケートの「PTA事業の活性化」の項目について、評価が少し低いように感じる。ホームページ等を活用し、PTA活動の案内や様子を多く載せてほしい。また、様々な学校行事の中でPTAが一緒に活動できるようなものは参加させてほしい。 ・学校評価アンケートの「本校に入学して良かった」という項目では、保護者の評価は総じて高いが生徒の評価と差がみられる。このことについて深掘りして見てはどうか。 ・学校評価の管理項目が多くあり、様々な分野に取り組まれている様子が見える。 ・学校評価項目は各校毎に違っているのか、他校と比較してどの程度のレベルなのか知りたい。また、工業高校同士であれば内容も似ていると思うので、比べてお互いに切磋琢磨してはどうか。 ・山形工業高校は県内工業高校を引っ張って行ってほしい。目標設定で曖昧な表現があり、甘い目標になっているのではないかと。レベルアップさせていく必要がある。	
		(2) 『新 YAMAKO 7 RULES』を基に、生徒・職員が一体となって感染症予防や衛生環境の向上に努める。【保健】	『新 YAMAKO 7 RULES』に基づき感染症予防や衛生環境の向上が図れた。新校舎における換気環境が優れていることと生徒・職員の意識の高さから学校行事後の感染拡大も最小限に抑えることができた。	A	現状に甘えずクラス間の意識の差を解消してより良い衛生環境を目指す。		
		(3) 生徒保健委員による清掃点検活動や、年8回の大掃除と年4回の清掃強化週間を通して学習環境の整備・保全とその美化に努める。【保健】	生徒保健委員会がデジタルサイネージを活用して学習環境の整備・保全とその美化について生徒へ呼びかけた。清掃強化週間は計画通りに実施できなかった。	B	生徒の自主性を尊重してより活発な活動を目指す。また、清掃強化週間については年度当初において明確に設定する。		
		(4) インクルーシブ教育システムの考えを踏まえた特別支援教育の充実を図るため、メンタルサポート委員会やスクールカウンセリングを毎月1回以上開催する。【保健】	メンタルサポート委員会やスクールカウンセリングは計画通り毎月1回開催することができた。委員会のなかで、近年の生徒を取り巻く家庭環境や社会の多様化によりサポート形態の検討が議論された。	A	インクルーシブ教育システムについて理解を深める校内研修会の実施と外部研修会への職員派遣を実施する。来年度に向け新たなSCが決定した。		
6	その他	(1) マナーアップ運動や授業参観等を通じてPTA活動の充実を図り、地域の行事やボランティア活動にも積極的に取り組む校風を醸成する。【総務】	救急法講習会、春季マナーアップ運動、授業参観など計画通り実施した。また、花笠祭りパレードにも3年ぶりに参加した。	A	活動方法や内容、実施時期等も検討しながら、例年通りの活動をしていきたい。	・学校評価項目は各校毎に違っているのか、他校と比較してどの程度のレベルなのか知りたい。また、工業高校同士であれば内容も似ていると思うので、比べてお互いに切磋琢磨してはどうか。 ・山形工業高校は県内工業高校を引っ張って行ってほしい。目標設定で曖昧な表現があり、甘い目標になっているのではないかと。レベルアップさせていく必要がある。	
		(2) 校内無線LAN「YELL」を大視聴覚室に拡充し、教職員用一人一台端末を使用したペーパーレス化の職員会議ができるようにする。【情報企画】	予算計上を行うも成立せず、「YELL」の拡充には至らなかった。	C	来年度も引き続き要望を行い、ペーパーレス化ならびにICTを活用した働き方改革へ寄与できるようにする。		
		(3) 不祥事根絶の取組みとして職員研修等を学期毎に行い、綱紀粛正を図るとともに教職員の同僚性のある職場環境づくりを推進する。【校内倫理委員会】	体罰のない指導の在り方についての研修会を4月26日に、校長が主催する安全運転研修会を5月22日に実施した。また、各種チェックシートを活用し不祥事防止に向けた意識醸成を図った。	B	普段からの声掛けにより同僚性を高め、随時、不祥事の事例を紹介・共有することで、各自が自分事と捉え、職員の不祥事防止に対する意識を高める。		